平成３０年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都市　】

１実践テーマ	【　Ⅳ　】
２実施対象者	京都市立高雄小学校　全校児童　９９名 神護寺管主・高雄小学校教職員 ピースラン参加者≪世界各国より≫約３０名
３展開の形式	（１）学校における活動 ①　教科名（総合的な学習の時間・道徳・学活　） ②　行事名（国際平和デー・ピースラン） ③　その他（　　　　　　　） （２）地域における活動 ①　イベント名（　　　　　　　　） ②　その他　　（　　　　　　　　）
４　目　標 （ねらい）	・ピース・ランは 1987 年にニューヨークで始まりました。これまで 150 か国を訪れ，走る際に持っているピーストーチを出会った方と共に手から手へと握り，一緒に走ったりゲームをしたり，時には音楽や芸術表現を通じて，国・文化を超えた平和と友情への願いをシェアするものです。 今回のピース・ランでは，まず，世界各地からピース・ランに参加する人が神護寺に集合し，境内において世界各国の人と本校児童（５・６年生）ともに平和を祈願する集会を行いました。その後，高雄小学校において全校児童とのふれあい集会を実施し，全校児童への国際理解教育・平和教育を実施しました。
５　取組内容	・豊かな学びリーディングスクールの研究指定「持続可能な開発のための教育　ＥＳＤ」と連動させ，高雄地域の歴史や文化を児童が学んだ後に，高雄の良さを発信する機会，さらには世界平和を祈念する集会として取り入れた。 校区にあり学習の対象でもある神護寺において「平和の祈り」を実施することで，地域愛が深まると共に，国際理解教育にもつながる取組ができた。 ピース・ランには世界各国から参加者が集結する。その人たちを高雄小学校に招き，共に活動することで全校児童の国際理解教育・平和教育にもつなげることができた。 ・ピース・ラン実施は９月２１日国際平和デーの取組として実施した。 ・１２月にピース・ラン京都支部より，国連総長に児童が考える「国際平和」についてのメッセージを送りたいので準備してほしいとの要請があった。 １月にピースラン京都支部にメッセージを送り，今後国連総長に送る予定である。

６　主な成果	・高雄は地域的に山の中にあり，なかなか色々な情報が入ってこないところである。保護者も地域の方々も自分の生活しているところ以外には関心が薄い。（全国学力状況調査のアンケートより） 　今回のピース・ランの取組はそんな児童にとってはとても有意義なものであった。世界の色々な国からゲストを招き，平和の集いができたことは児童の国際理解教育に大きな影響を与えたと考える。 　平和に集い終了後の感想として「平和はまず隣の人と仲良くすること」と言われたことに感銘を受けていた児童も多く，有意義な時間となった。 　その後国連総長にメッセージを送るチャンスを得られたことも，非常に大きな経験になった。
７実践において工夫した点（事業の特色）	・学校だけでの取組ではなく，地域にある神護寺と一緒に取り組めたこと。本来は高山寺も一緒に活動する予定であったが，台風の被害で参加できなかったことは残念であったが，地域の財産を全世界にアピールする良い機会になった。
８主な課題等	・天候等で当日無事に取組ができるか不安があった。また，１６２号線をランナーが走るという事で，安全面への配慮が必要であった。 ・児童が神護寺まで移動するための費用と時間を工面することが必要であった。
９来年度以降の実施予定	・高雄小学校は研究を「ESD」とし平成２９・３０年度に取り組んできた。その中でピース・ランの取組も実施した。 ・次年度は「ESD・SDGｓ」の取組をさらに発展させ，「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」を実施する予定である。このプロジェクトでは，ＳＤＧｓの取組を海外の小学校と交流し，その後共同で壁画を完成させ，２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックに掲示する。 　文化交流した後，作製した壁画を東京オリンピック・パラリンピックに掲示する活動は，本事業の趣旨に合致したものであると考え，次年度もこの事業に参画したいと考えている。